

日本図書館文化史研究会  
2009年度研究集会のご案内

2009年度日本図書館文化史研究会研究集会・総会を、おおむね下記のように開催することになりました。多くの方の参加を期待します。

記

- 日 程： 2009年9月12日（土）・13日（日）・14日（月）
- 会 場： 皇學館大学・伊勢キャンパス5号館521教室  
三重県伊勢市神田久志本町1704  
<http://www.kogakkan-u.ac.jp/html/student/p05-01.html>  
※ 懇親会会場： 伊勢内宮前すし久  
伊勢市宇治中之切町おかげ横丁内  
<http://www.okageyokocho.co.jp/shop/sushikyuu.html>
- 交 通： 伊勢市駅（JR・近鉄）または宇治山田駅（近鉄）より、内宮行（徴古館前経由）または宿浦行バスに乗車（約10分）、皇學館大学前下車。または徒歩約15分  
<http://www.kogakkan-u.ac.jp/html/index/p06.html>
- 参 加 費： 2,000円  
※ 懇親会参加費：7,000円
- 申込方法： 次の事項を明記して、下記まで電子メール、ファックス、または葉書でお申し込み下さい。
  - ◆ 氏名（ふりがな）
  - ◆ 所属
  - ◆ 懇親会参加の有無
  - ◆ 12日（土）午後のオプションツアー参加の有無
  - ◆ 13日（日）午前の神宮徴古館見学参加の有無
  - ◆ 14日（月）の昼食弁当の申し込み
- 申 込 先： 〒321-3295 宇都宮市竹下町908 作新学院大学  
司書・司書教諭課程 小黒 浩司  
電子メール：[oguro@sakushin-u.ac.jp](mailto:oguro@sakushin-u.ac.jp)  
ファックス：028(670)3671
- 申込締切： 2009年8月31日（必着）

○ プログラム

**第1日**：9月12日（土）

- ※ オプショナルツアー「近世松阪の出版・菟書文化と伊勢商人の文庫見学」
  - ◆ 詳細は4ページをご覧ください。

**第2日**：9月13日（日）

10:30-11:10 神宮徴古館見学（希望者）

伊勢市神田久志本町 1754-1

<http://www.isejingu.or.jp/museum/>

- ◆ 入館料：300円
- ◆ 『ニューズレター』108号では神宮文庫の見学のご案内しましたが、神宮徴古館見学に変更しました。ご了承ください。

10:15 神宮徴古館前集合

10:30-11:10 神宮徴古館見学（学芸員による陳列品解説を交渉中）

12:00- 研究集会受付開始

12:30-13:30 会員総会

- ※ 審議未了の案件がある場合、2日目の個人発表終了後に引き続き審議します。

13:40-17:00 シンポジウム「これからの図書館史教育と図書館史研究」

- ※ 本シンポジウムは、日本図書館研究会図書館学教育研究グループとの共同開催です。（同グループの第132回研究例会です）

13:40-13:50 開会挨拶

13:50-14:20 シンポジウムの趣旨 小黒 浩司（作新学院大学）

14:25-15:05 報告① 省令科目をふりかえる

柴田 正美（帝塚山大学）

15:10-15:50 報告② 日本の図書館学関係行政命令科目における図書館史関係事項の検討：変遷と時代的特徴

志保田 務（桃山学院大学）

16:00-17:00 全体討論

- ◆ シンポジウム各報告の要旨は、6ページをご覧ください。

17:30-19:30 懇親会

- ※ 伊勢内宮前すし久

- ◆ 懇親会会場まではタクシーで移動します

**第3日**：9月14日（月）

10:00-11:00 個人発表① 藩校文庫の管理運営に関する研究

膽吹 覚（福井大学留学生センター）

11:00-12:00 個人発表② ウェスタン・リザーブ大学ライブラリー・スクールの歴史  
1963-72年

松崎 博子（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科）

13:00-14:00 個人発表③ 19世紀末から20世紀初頭の米国における学校図書館に関する議論の進展

中村 百合子 (同志社大学社会学部)

14:00-15:00 個人発表④ コレクション形成と主題表現の可能性ーピアス・バトラーの実践を中心にー

若松 昭子 (聖学院大学)

◆ 各個人発表の要旨は、6～7ページをご覧ください。

15:00-16:30 運営委員会

※ 14日(月)のみ、昼食弁当を用意します(1,000円程度)。ご希望の方はお申し込みください。

※ 研究集会の日程が、新体操世界選手権の日程(伊勢市内が会場)と重なっています。このため、市内の宿泊施設が大変込み合う模様です。宿泊の斡旋を行いますので、ご利用ください。

日本図書館文化史研究会 2009 年度研究集会  
オプションツアーのご案内

2009 年度研究集会の前日に、以下のようなオプションツアーを実施予定です。あわせてのご参加を期待します。

なお、『ニューズレター』108 号掲載のご案内と内容が若干異なっておりますので、ご注意ください。

1. 日 時： 9 月 12 日（土）12 時 30 分～17 時 40 分
2. 内 容： 近世松阪の出版・蒐書文化と伊勢商人の文庫見学
3. 訪 問 先： 継松寺（板木と出版資料）・松阪商人の館・射和文庫（竹川家）・竹口家など
4. 集合時間： 12 時 30 分
5. 集合場所： 松阪駅 JR 側改札（南口）
  - ◆ <http://railway.jr-central.co.jp/station-guide/tokai/matsusaka/map.html>
6. 参加費： 4,500 円
  - ◆ 三交旅行社マイクロバスを利用します。
  - ◆ 旅行傷害保険料、松阪商人の館入館料等を含みます。
7. 参加定員： 25 名
  - ◆ 先着順で受け付けます。
8. 旅 程

松阪駅 JR 側改札口集合（12：30）——〈バス 10 分〉——継松寺（「岡寺版集帖」と板木）【40 分滞在】出発（13：20）==（徒歩 10 分）==松阪商人の館（伊勢商人の暮らし）【30 分滞在】出発（14：00）==（徒歩 5 分）==三井家発祥地・西荘文庫跡（小津桂窓の文庫）・本居宣長旧宅跡・長谷川家（木綿問屋）【徒歩にて各場所を見つつ通過 所要時間約 10 分】出発（14：15）==（徒歩 10 分）==松阪城【市内眺望 5 分滞在】  
出発（14：30）==本居宣長旧宅（鈴屋）【見つつ通過】==バス駐車場（14：40）——〈バス 30 分〉——射和文庫（竹川家）【50 分滞在】出発（16：00）——〈バス 10 分〉——竹口家（伊勢屋）（50 分滞在）出発（17：00）——〈バス 40 分〉——宇治山田駅（各ホテル）（17：40）

## シンポジウム・個人発表要旨

13日

### シンポジウム

- テーマ : これからの図書館史教育と図書館史研究
- 報告者 : 柴田 正美 (帝塚山大学)  
志保田 務 (桃山学院大学)
- 司 会 : 小黒 浩司 (作新学院大学)
- シンポジウムの趣旨

2008年7月、これからの図書館の在り方検討協力者会議は、「大学において履修すべき図書館に関する科目の在り方について」を明らかにし、新しい司書養成科目の試案を明らかにしました。しかしこの試案には、現行カリキュラム「図書及び図書館史」に相当する科目は設けられていませんでした。

本研究会はこれに対して文部科学大臣への意見書提出、パブリックコメントの提出などを行い、図書館史教育の一層の充実を求めました。こうした研究会の活動が功を奏したのか、4月に改正・公布された図書館法施行規則で「図書・図書館史」が選択科目ではありますが、存置されました。

今回のシンポジウムでは、この1年間の研究会の取り組みを総括し、あわせて1950年以來の司書養成教育の歴史を振り返ります。そしてこれからの図書館史教育、図書館史研究の行方を議論したいと思います。

報告① 14:25-15:05

柴田 正美

- 報告題名  
省令科目をふりかえる
- 報告要旨

2008年6月の図書館法改正により、司書の養成制度は大きく変化しました。1950年9月の図書館法施行規則制定から、今回の改訂に至るまでの司書養成科目や単位数の変遷をたどりながら、各回の改訂の意図を考察し、図書館情報学教育の歴史を検証する。またそこから、大学における図書館員養成教育の今後を考えたい。

報告② 15:10-15:50

志保田 務

- 報告題名  
日本の図書館学関係行政命令科目における図書館史関係事項の検討：変遷と時代的特徴
- 報告要旨

平成19-20年度持ち上がった「大学において履修すべき図書館に関する科目」群に対する議論のうち、「図書館史」の重視に関する要望が顕著であった。その行動成果は後に見るとして、初回の昭和25年の図書館法制定時から、第2回 昭和43年、第3回 平成8年

文部省令による改訂の中に「図書館史」の項目を拾って、それぞれの時代との関係を考察する。

14日

## 個人発表

発表① 10:00-11:00

膽吹 覚（福井大学留学生センター）

○ 発表題名

藩校文庫の管理運営に関する研究

○ 発表要旨

藩校の文庫に関する先行研究は、文庫に所蔵されていた書籍に関する研究が中心であった。その一方で、具体的に誰がどのようにして藩校の文庫を管理運営していたのか、という点に関してはほとんど明らかになっていない。そこで、本発表では文部省編『日本教育史資料』（明治23年刊）に掲載された各藩校の史料に基づいて、藩校の文庫の管理運営がどのように行われていたのかという問題について具体的な検討を加えてみたい。

発表② 11:00-12:00

松崎 博子（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科）

○ 発表題名

ウェスタン・リザーブ大学ライブラリー・スクールの歴史 1963-72年

○ 発表要旨

アメリカオハイオ州にあるウェスタン・リザーブ大学には1904-80年の間、ライブラリー・スクールが存在していた。ジェシー・シェラ（Jesse H. Shera）学部長時代を中心に①1904-52年②1953-72年③1973-80年と時代区分し、研究を進めている。今回は、②の後半10年間について、スクールの目的、カリキュラム、教員の教育・研究活動、学位授与数、就職状況、ALAの認定、クリーブランド公共図書館の協力体制などを経年的に追う。

発表③ 13:00-14:00

中村 百合子（同志社大学社会学部）

○ 発表題名

19世紀末から20世紀初頭の米国における学校図書館に関する議論の進展

○ 発表要旨

米国では、19世紀末に、教育また図書館の関係の逐次刊行物に、学校教育と図書館を関連づけて言及した記事が見られるようになる。本研究では、米国の学校図書館史の初期の思想と実践を探るべく、19世紀末から20世紀初頭に、学校と図書館について、それらの記事でどのような主張や報告がされていたかを整理・分析する。当時の米国の教育界また図書館界で広く読まれていたと考えられる、次の逐次刊行物を整理の対象資料とする。

*National Education Association Journal of Proceedings and Addresses ; English*

*Journal ; Education: An International Magazine*, そして *A.L.A. Bulletin ; Library Journal ; Public Libraries*。

発表④ 14:00-15:00

**若松 昭子** (聖学院大学)

○ 発表題名

コレクション形成と主題表現の可能性—ピアス・バトラーの実践を中心に—

○ 発表要旨

ピアス・バトラーは、シカゴ大学大学院図書館学研究科の設立時教授陣の一人である。彼は、シカゴ大学以前、ニューベリー図書館において印刷史を主題とするコレクションの形成に尽力した。印刷術の社会的文化的な影響に関心を抱いていたバトラーは、特に初期印刷本の収集に力を注いだ。本発表では、当館の蔵書をもとに印刷革命の具体的諸相を描出し、コレクション形成におけるバトラーの意図とその実際を検証したい。